

公益社団法人 千葉県建築士事務所協会 副会長のご挨拶

副会長 星野 正行



会 員、賛助会員の皆様におかれましては業務がお忙しい中、当協会の活動にご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

この度、副会長を拝命いたしました船橋支部の星野正行です。

令和6年は能登半島地震という未曾有の災害から始まってしまいました。災害に遭われた方々には心からお見舞い申し上げます。今回の地震で斜面の崩壊、液状化、地盤沈下などによる建物の傾きや崩壊等の報告があります。建物上部の耐震補強も必要ですが地盤の設計に対しても今まで以上に慎重な調査等による検討が必要だと改めて感じています。

千葉県も災害が多く今後、会員、県民に対し有意義な情報提供ができるよう情報の収集を行い、提供ができる体制を構築したいと考えています。

私が当協会に入会したきっかけは耐震偽装（姉齒事件）でした。知り合いの不動産会社が事件に巻き込まれ対応の協力で偽装にあった建築物の建て直し、耐震改修などを手掛けていました。当時はどこの団体にも所属していない為、情報が入ってこなく苦慮していました。普段は特に意識をしていますが、こと緊急な状況にあった時は情報の収集、特に設計者同士での情報収集、意見交換が必要と感じました。現在、情報はインターネットなどにあふれていますが、人と対面し話し合うことで問題解決に至ることが多く、今では本協会に入会して本当に良かったと思っています。

まだ入会していない建築設計事務所に対しては情報の重要性、設計事務所同士の横のつながりがいかに大切かを伝えて入会を勧めていきたいと考えています。また、建築設計事務所の代表、資格者も高齢化が進んでいる状況でいかにして会の存続を図り、若い方が入りやすい協会にするためには何が必要かを考え、協会の為に活動していきたいと思えます。

会員の皆様、賛助会の皆様、県民の皆様にとってより良い年になりますよう祈念し、ご挨拶いたします。

副会長 大木 建雄



日 本経済新聞によると2025年(来年)インドの名目GDPが日本を上回る見通しとなりました。昨年ドイツに抜かれインドに抜かれれば5位に後退します。かたや株価は最高値を更新していますが実感はありません。私たちの建築関係は忙しいようにも見えます。しかし将来的には近年のウクライナ情勢の悪化や世界的な円安が影響して、資材の高騰が深刻です。あるデータによると、2022年(令和4年)の労働人口のうち、55歳以上は35.9%、29歳以下は11.7%という結果であり、厚生労働省の2018～2022年の出生率は全国平均1.33に対し、千葉県は1.25、市町村で最低は銚子市、栄町の0.99でした。この少子化と高齢化が原因で発生する問題は、後継者不足です。設計事務所も後継者の決まっていない事務所は多いと思います。このような問題を解決できる一つの組織として千葉県建築士事務所協会が積極的に関わっていくことが必要だと思います。

私たちの協会ですぐ出来ることは会員同士のコミュニケーションを活性化させ、信頼関係を構築し楽しい会にすることです。そこからいろいろな情報交換ができ、問題解決への糸口が見つかると思います。仕事の共有も発生してくると思います。まずは協会のイベントに積極的に参加するため仲間を誘っていききたいと思います。楽しくやるのが一番です。